

映画監督 前田陽一プロフィール

前田陽一

1934年 兵庫県龍野市に生まれる。

早稲田大学文学部卒業後、日映画会に入社「松本武次郎」に、助監督として入社。

1964年 自作のオリジナル脚本「にっぽんぼらだ」で監督としてデビュー。これは、日本の公営娯楽度が1958年に廃止されるまでの、公営娯楽「ヨシワラ」の戦後の歴史を、日本の戦後史に引きつけて、風刺的に描いたものであった。

その後、24本の劇映画を作る。代表作は「あゝ、軍歌」「坊っちゃん」「三億円をつかまえる」など。テレビ映画も手がけている。

「神楽のくれたおんたけ」は、外国語には適切な言葉の無い、日本人(特)の感情をうまじく「小悪さ」の表出をテーマにした。生まれた銀行並への「小悪さ」、肉親への「小悪さ」。この作品は朝日新聞映画コンクールで第1位、文化庁奨励賞などを、読者ももらった。

前田は映画作りに当たり、劇作家であり小説家の井上ひさしの言葉「むづかしいことと、やさしく。やさしいことと面白く。面白いことと深く」を信条としている。しかし、「最後の部分で、仲々むづかしい」とは、本人の弁。前田は、この作品が、リトアニア共和国で初めて上映されることを、とても光榮に思っている。